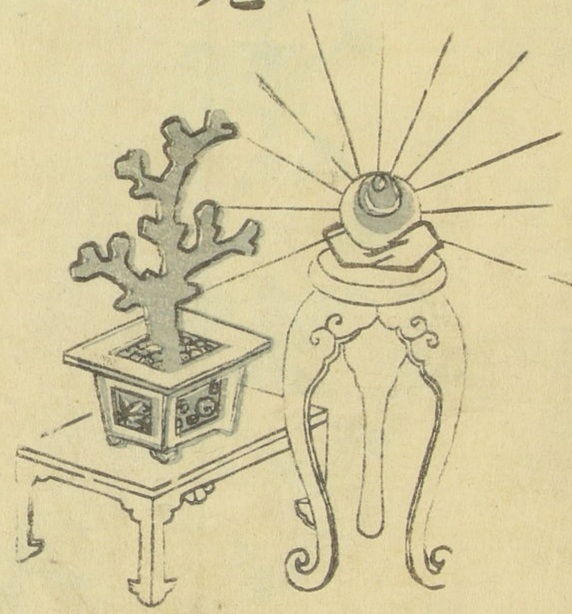
へ13
3785
1

釋迦八相倭文庫

初編上之巻

門へ13
號3785
巻 1

万亭應賀著
一陽齋豊國画



錦重堂梓

叙

大集経末記に曰如く自法隱没と説きて
こゝに今この時に合せ見るに不思議なる其意
不達四民の心顛倒して武家に審大に審なり
二十五王と婦人女房あり子は十八歳にして
我が法をもて教こゝとせ
さと書き一點も疑ふべからざるの様智恵方便
八四十餘年の元祖なれば釋迦八相の物
語りを扨よ加えて是を著す

天保十六年　乙巳の春陽　二十五歳の戯作　二十番目の内　万亭應賀述

中ノ竺迦毘羅城
三十七代
浄飯大王
善覚大臣の娘
摩耶夫人

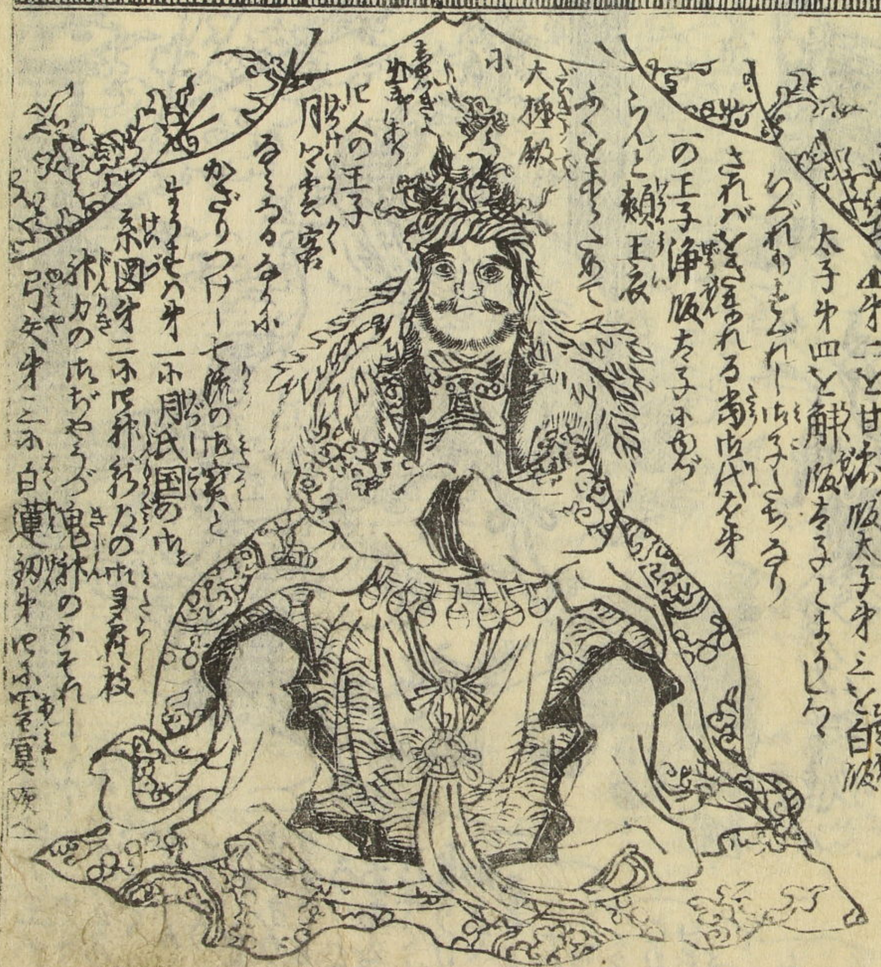
善覚大臣の娘
摩訶曇弥

浄飯王の
忠臣
優陀夷
悉達
太子
奉守

優陀
夷
女房

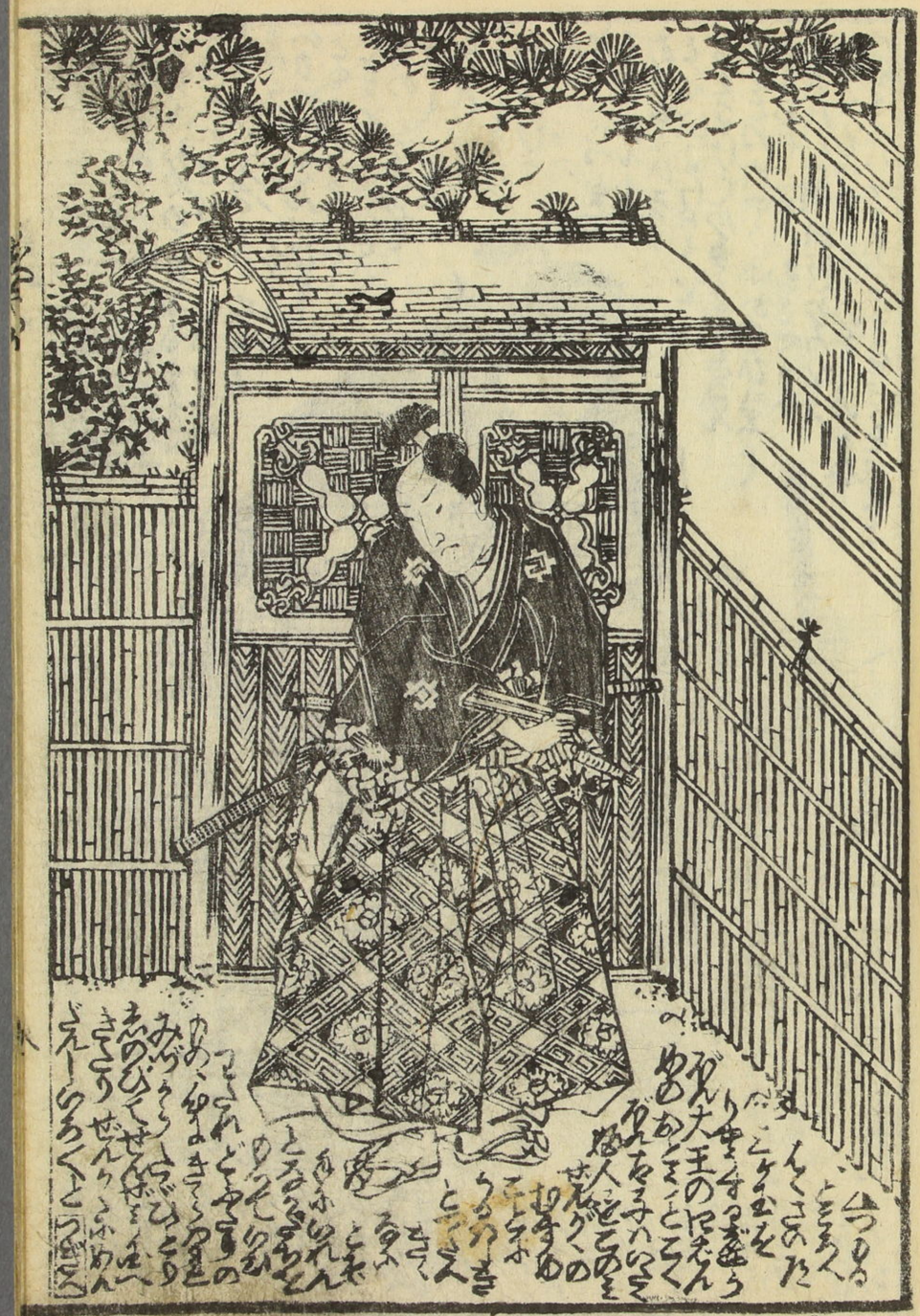
師子頬王

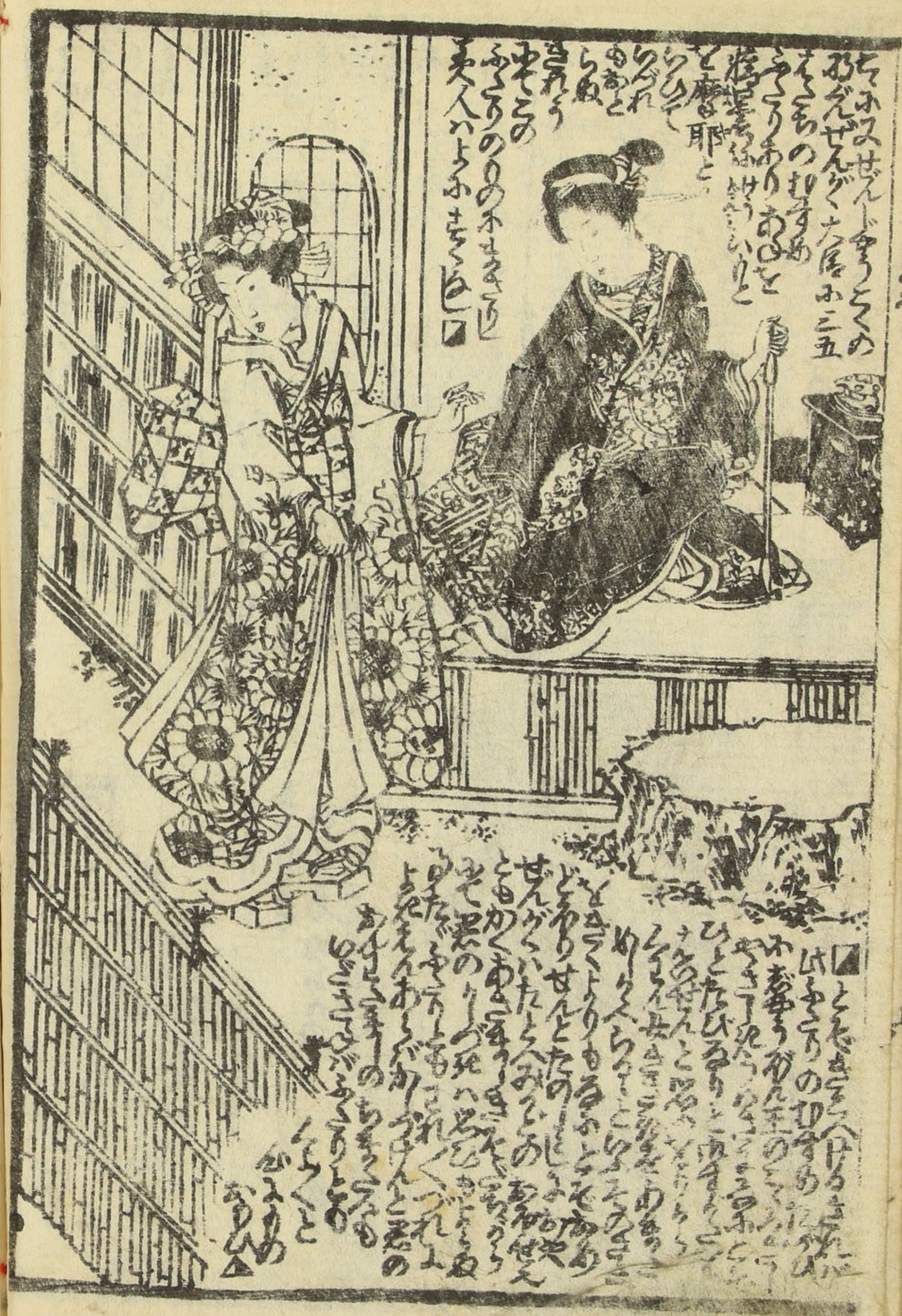
五天竺の中の中天竺摩訶陀国の都迦毘羅城の開闢大賢王三十森の帝師子頬王とやうたそまつるふ王子四人ありオ一を浄飯太子



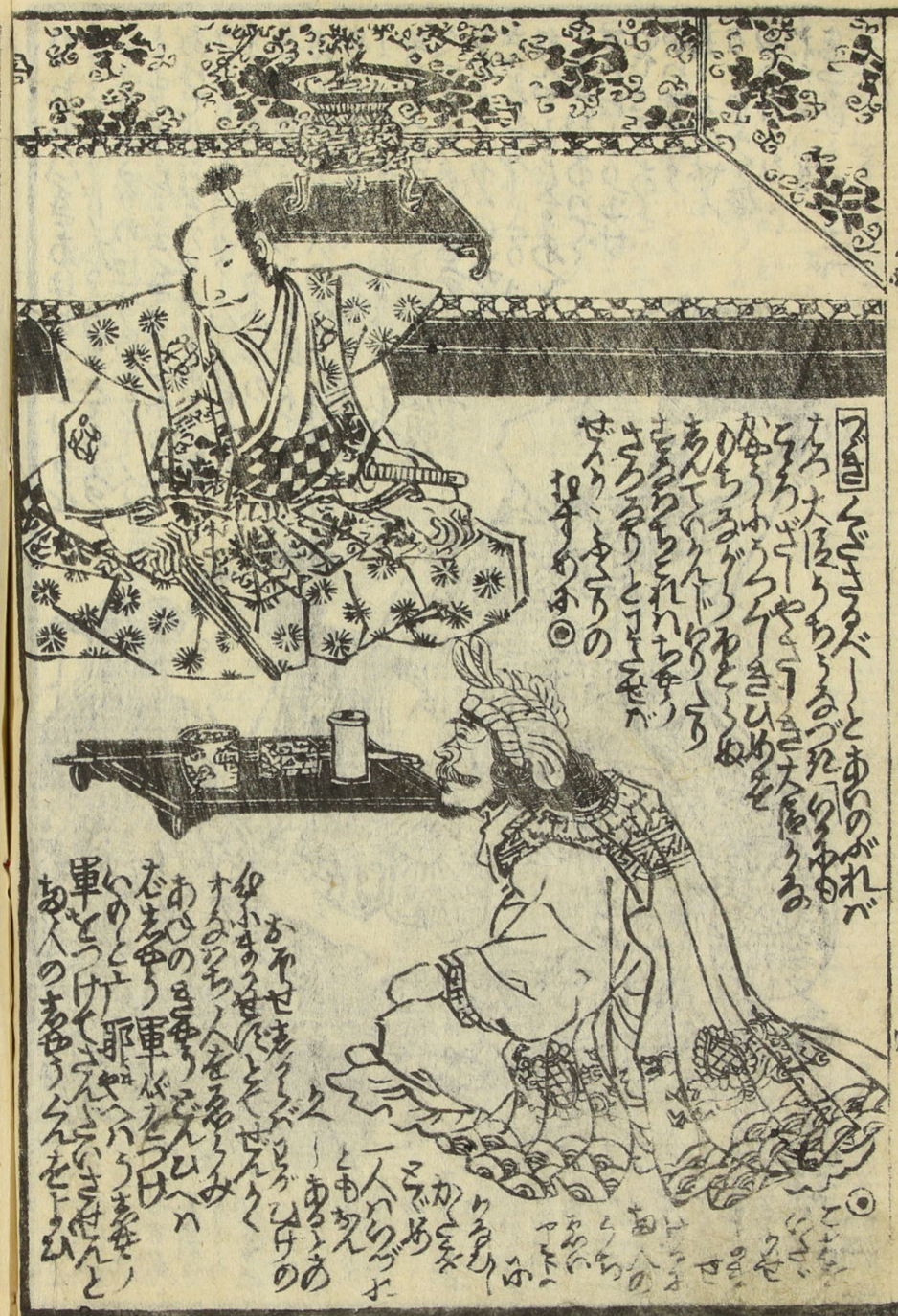
閻魔大王は
くんじゅうのぐん
あふのぐりきうの
どたいしく
ぜんしん
あつまり
けれども
世ふのり
ぐんこう
ありと
あやぎ
たぐいこ
きりけり
かくて
あるとき
大王
ひと
きふ
こゝろ
世ざう
の
を
陸地
閻魔大王の出
陸地
白服
あと
三人へは
ふをつけて
ゆき
さて
あり
まり
ます
ありぐ
じゅう
たを
それは
ありぐさに
ぎんぐ
ぐる
せんどう
まろせまで
ゆかこと
ぐもの
ゆくふこの
はなまりの
あんとこだ
のこまれて
ぐそ
ぬ月けいう
くにをそろ
みるだんぜん
とろへ
ぐけふあり
ぐんぜん
三人の王
ふへいとう
さんのえぐ
のまをこと
ゆり百ゑ
のりのくも
それくふ
官位をまーろ
けるれも
玉民の
ゆるびの
そぐを
つくれてう
そろへて
しりぞけ
さるやど
黒服
緑服

つゞき
▲あう愛作この事を
○大国柱二人
○孤獅子
○大国
○濡髪七本槍中本三冊
○義石山蔵
精灵四冊





百くらいの
こもぐらいなんな
みやこ
あんこと
ちまく
大王の



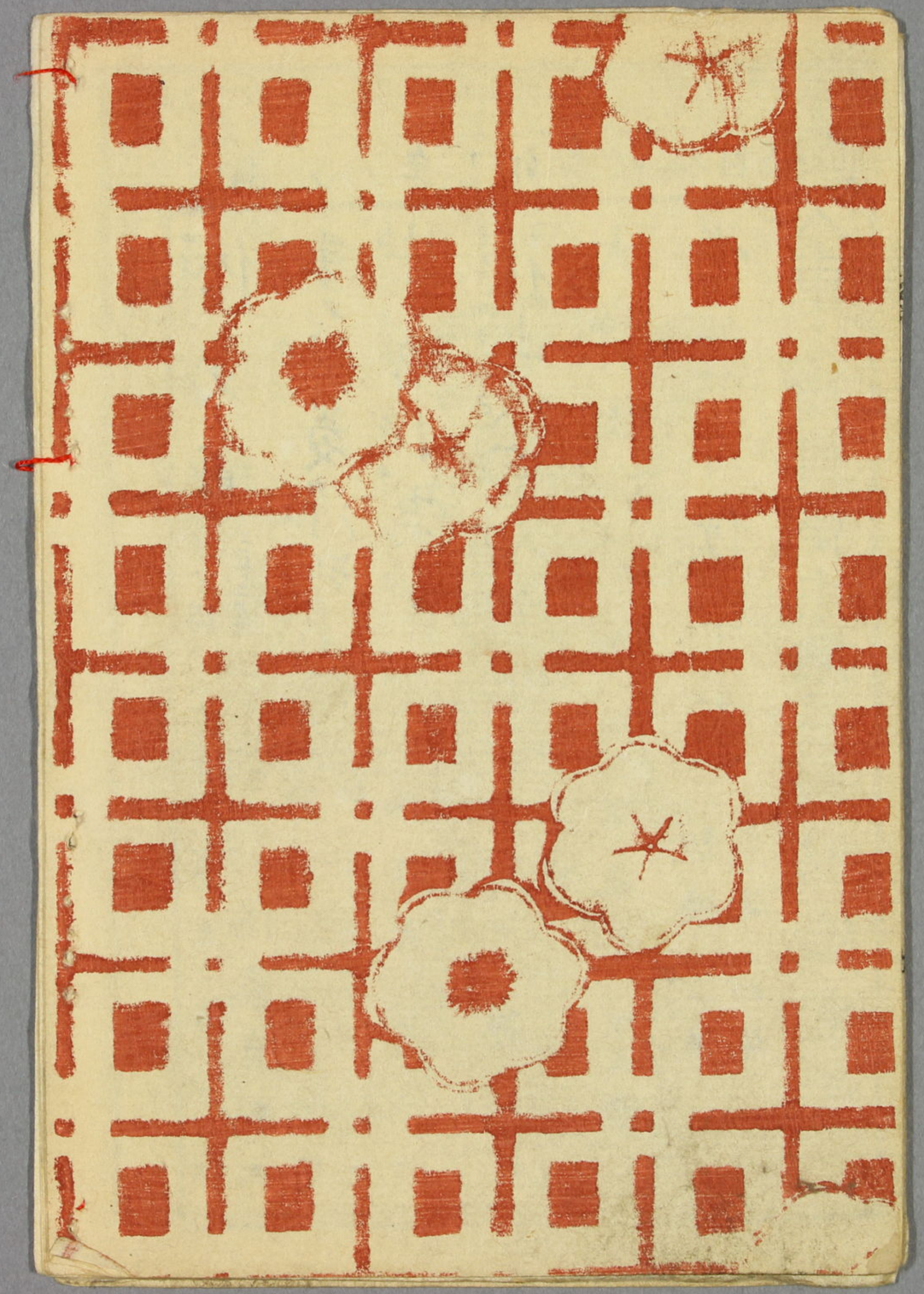
倭文庫 三十編 三十一編 三十二編 三十三編 万亭應賀作 陽齋豊國画

重の井菱染別小紋 四編 五編 同 水春水作 画

昔語小栗實説 三編 同 松亭金水作 画

花山吹百人女郎 初編 二編 同 柳亭種彦作 画

大寶御江戸圖 極上摺 奉書六枚半續

常磐津懐中本 初編 二編 三編 四編

〈重 繪州紙本類 人形町 上州屋重藏